

第12回支部通常総会を開催

(一社)日本建設機械施工協会中国支部は、第12回通常総会を5月31日ホテルメルパーク広島において、支部団体会員82団体（うち委任状30団体）の参加のもと開催しました。今回の総会は、この5月8日からの新型コロナ対応の変更を踏まえ、総会の内容を従前に戻して、主要議事と表彰に加え講話と記念講演、引き続き懇親会の内容としました。

冒頭、河合支部長の挨拶で、「令和という新しい元号が幕開けし、早4年が経過しておりますが、当支部のこれまでの活動を振り返ってみますと、ICT技術の活用に向けて取組んできており、当協会が目的としております『建設事業の機械化を推進し、もって国土の利用、開発及び保全並びに経済及び産業発展に寄与する』ことに、いささかなりとも貢献できているものと考えております。

毎年、豪雨に見舞われ、自然災害が発生しており、昨年も9月の台風14号により島根、広島、山口県で浸水被害が発生しております。こうした自然災害に対しましては、今まで以上に国土の強靱化が重要となっておりますし、住民一人一人がいかに危機管理意識を持つかが重要となっております。

一方、戦後の高度経済成長期に整備された社会インフラも高齢化の域に近づきつつあり、また、南海トラフ地震等の発生も現実味を浴びる中、これらインフラの更新、老朽化対策等が喫緊の課題とされ、防災・減災対策を含めた総合的な取り組みが望まれております。また、技術者や技能者の不足といった深刻な問題もまた顕在化しており、女性技術者や外国人労働者の育成・確保も含め、その早急な解決策が求められています。

このような中、『建設DX』『i-Construction』は、国土交通省はもとより、地方公共団体でも取り組みが促進され、いよいよ本格的な実施段階にきております。また、BIM／CIMは令和5年度より国土交通省の直轄案件において全面適用とされており、最新の情報が不可欠な状況にあります。

当協会におきましても、これまでに建設現場の生産性向上に向けた新しい技術であります「ICT施工」について現地研修会、講習会等を通じ人材育成面での支援を行って参りました。新年度も今まで以上に「デジタル技術の効果的な活用」を中心に『建設DX』『i-Construction』の普及・促進に向けて情報発信、人材育成等に取り組んでまいり所存ですので皆様方のご支援、ご協力のほど宜しくお願いいたします。」と、昨今の情勢を踏まえた中国支部の方針に基づく総会の審議、および、支部活動への協力要請が伝えられました。



河合支部長挨拶

また、総会議事においては、令和4年度事業報告及び決算報告、令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）の審議が行われ、いずれも原案通り承認されました。

令和5年度「一般社団法人日本建設機械施工協会感謝状贈呈」では、支部団体会員として会員期間70年の(株)大林組広島支店、(株)大本組広島支店、(株)熊谷組中四国支店、コベルコ建機(株)、コベルコ建機日本(株)中四国支社、五洋建設(株)中国支店、清水建設(株)広島支店、大成建設(株)中国支店、宝物産(株)、(株)フジタ広島支店に、会員期間60年の日本キャタピラー合同会社中国地区営業本部に、会員期間40年のサノヤス・エンジニアリング(株)東京テクノセンター、西尾レントオール(株)西中国営業部、(株)原商、会員期間30年のコマツカスタマーサポート(株)中国カンパニーの15支部団体会員に、当協会本部の岩見事務局長から感謝状の贈呈が行われました。



本部の岩見事務局長から感謝状の贈呈

また、令和5年度「建設の機械化施工優良技術者表彰」では、会員各社から推薦された運転・整備部門1名、管理部門3名、技術開発部門1名の合計5名の優良技術者に表彰状と記念品が贈られました。

今年度の優良技術者表彰を受賞された方々は次のとおりです。

運転・整備部門	地畠 春美：(株)加藤組
管理部門	井上 剛史：鹿島道路(株)中国支店
	上土 泰洋：(株)加藤組
	伊藤 学：五洋建設(株)中国支店
技術開発部門	西谷 俊二：鹿島道路(株)中国支店



優良技術者表彰を受賞された方々



記念講演の様子

総会に引き続き行われた講話では、中国地方整備局企画部施工企画課長の岸本孝文氏から「国土交通行政の最近の話題」と題し、令和5年度における主要事業及び主要施策が紹介されました。また、記念講演では、広島市都市整備局スタジアム建設部スタジアム工務第二担当課長の清水由明氏から「サッカースタジアムの整備について」と題し、現在広島市の中心部で建設が進められているサッカースタジアムや中央公園の整備事業と工事進捗が紹介されました。

「DX・i-Conセミナー 2023」を開催

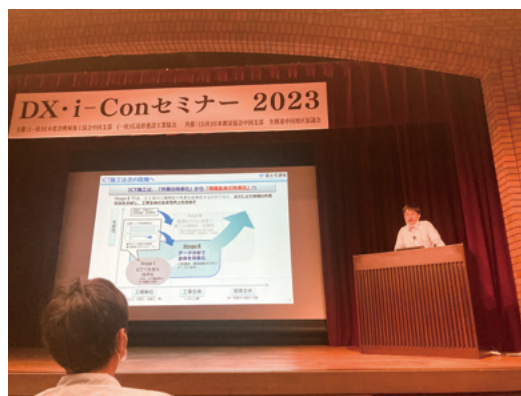
(一社)日本建設機械施工協会中国支部では、4月24日(月)に広島にて「DX・i-Conセミナー2023」を開催しました。

インフラDX・i-Constructionは、国土交通省はもとより、地方公共団体でも取組みが促進され、地元の施工業者、測量設計業者等による活用も拡大し、いよいよ本格的な実施段階に来ている中、BIM／CIMは令和5年度より国土交通省の直轄案件において全面適用とされており、最新の情報が不可欠な状況にあるため、新年度に入ったこの時期に、インフラDX・i-Constructionの現状、今後の方向性や最新の活用事例を紹介する目的とし、発注機関ならびに測量、設計、施工、維持管理に携わる企業の技術者を幅広く対象としたセミナーを実施したもので、251名の参加を得ることができ多大な反響を得ることができました。

平成26年11月に「CIM・情報化施工最新情報セミナー」を前進させ、i-Constructionが登場した平成28年より「i-Constructionセミナー」、今回より広くDX分野まで意識した「DX・i-Conセミナー」として、全国でも最初に国土交通省がその施策を発表するセミナーとして定着するセミナーとなりました。



会場の様子



講演の状況

セミナーの内容は次の通りです。(講師敬称略)

○講演『中国地方の建設現場の生産性向上について』

国土交通省 中国地方整備局 企画部 樋野義周氏

○講演『建設DXに資するICT施工の取組』

国土交通省 大臣官房参事官(イノベーション)室 中根亨氏

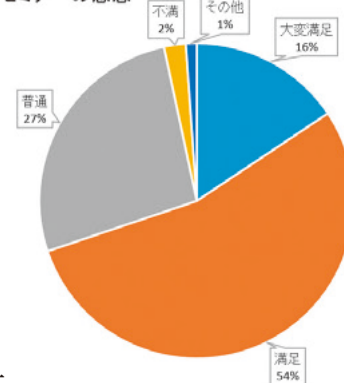
○講演『ICT活用工事の課題と解決のヒント』

(一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 藤島崇氏

○講演『施工現場に於けるBIM／CIM全面適用への対応について』

(一社)日本建設機械施工協会 中国支部 開発普及部会 高田純氏

セミナーの感想



参加者アンケートからは、セミナーについては満足度が高く、「『ICT活用工事は今までの施工を見直すきっかけ』という言葉が心に響きました。」「少しずつでも活用していくことが必要と理解しました。」や「帰宅後、社内で情報提供するため、講義資料と配布資料は極力同じものとして頂けると良い。」などの感想・意見がありました。中国支部では、今後も建設施工現場の生産性向上に活用いただける仕組みづくりを検討して参りますとともに、DX並びにi-Constructionがより普及していくように様々な取組を実施して参ります。

令和5年度 建設技術講習会（Web）開催

（一社）日本建設機械施工協会中国支部では、支部会員の皆様が直面する課題やこれからの事業活動に重要な最新の技術情報及び動向を提供する「建設技術講習会」を開催しております。令和3年度からWebによるビデオ講習会を開催しており、今年度も下記のとおり計6課題、延べ6時間の内容で開催しました。

講演内容は以下のとおりです。（講師敬称略）

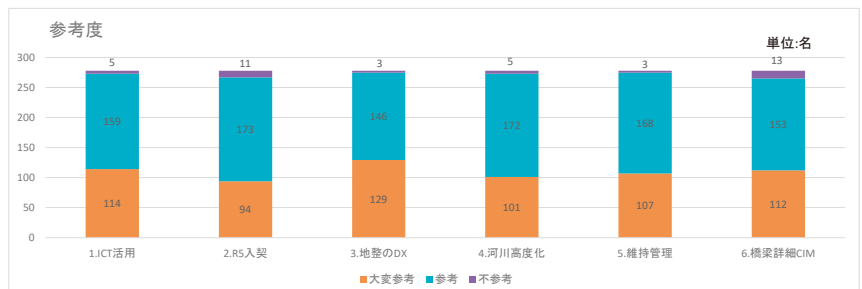
- ・ ICT活用工事の最近の動向と事例紹介
 - （一）日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 椎葉祐士氏
- ・ 令和5年度の入札契約制度及び生産性向上と働き方改革について
 - 中国地方整備局 企画部技術管理課 山村嘉治氏
- ・ 中国地方整備局のインフラDXとBIM／CIMの取り組み
 - 中国地方整備局 企画部 樋野義周氏
- ・ 河川構造物の高度化（DX）について
 - 中国地方整備局 河川部 伊藤健氏
- ・ 社会資本の戦略的維持管理について
 - 中国地方整備局 道路部 高口敏弘氏
- ・ 橋梁詳細設計業務に関するBIM／CIM活用について
 - 八千代エンジニアリング（株）広島支店技術部 吉岡正幸氏



ご講演者の皆様には、ご多忙の中、貴重なお時間を割いてのご講演録画に協力して頂きお礼申し上げます。

今回の技術講習会は、約2週間（令和5年5月23日(火)～6月5日(月)）の聴講可能期間を設けたことと、現在進められている土木建設機械施工に関する時宜を得た講習会であったことから、308名の聴講申込を頂きました。参加者からは聴講終了後に278名の方からレポート提出があり、頂いた感想や意見などにつきましては、今後の講習会開催の際に参考とさせていただきます。

- ・ 空時間で、業務に支障を来すことなく視聴できた。
- ・ 時宜に沿ったテーマで、今後の仕事の参考になった。
- ・ 旬な内容が分かり易く大変勉強になった。
- ・ 現場を離れずに視聴でき良かった。
- ・ 繰り返し聴講できより理解できた。



雲南市インフラDX講習会



会場の様子

令和5年5月17日に鳥根県i-Construction推進連絡会の主催で、鳥根県雲南市にて雲南市及びその周辺に本支店営業所を有する企業など技術者を対象にインフラDX講習会が開催されました。

本講習会は、これまでi-Constructionを体験していない方やさらに知識を深めたい方に対して、最新のICT建設機械やDX技術を使って生産性向上につながることを体験して頂くために開催されたもので、50名の参加がありました。

講習会の内容は以下の通りで、最初に開催地の石飛厚志雲南市長から「これからDXによる変化を建設業界でも起こしながら、この雲南地域の発展に向けて皆様と一緒に持続可能な体制づくりを進めてまいりたいと考えている。」との挨拶がありました。

講習会の内容は以下のとおりです。

- ・ 概論「中国地方におけるインフラDX」
国土交通省中国地方整備局企画部 中本嘉実氏
- ・ 基礎「ICTツールの普段使いとその効果」
(一社) 日本建設機械施工協会中国支部施工部会 實田泰之氏
- ・ 全国Topランナーの導入事例紹介「ICT、DXへの挑戦」
(株) 砂子組企画営業部ICT施工推進室 真坂紀至氏
- ・ 地域Topランナーの導入事例紹介「ICTへの取組内容とその効果」
森下建設(株) 森下幸生氏
ストラテジクスマネジメント(株) ICTソリューション事業部 川口太助氏
(講師敬称略)



石飛雲南市長の挨拶

講習会参加者は座学後に、ICT小型建機や三次元計測・出来形管理などのDX・i-Conツールを実際に体験されました。



座学の様子



ICT小型建機による模擬掘削実演



三次元計測の事例説明

参加された皆様からは、ICT施工の課題として意識や知識、教育を挙げる声も多く聞かれました。当協会中国支部では、今後もセミナーや講習会へ技術支援を通して、DX・i-Conの理解度向上に寄与するべく取り組んでまいります。

国土交通省コーナー

令和5年度 災害対策用機械操作訓練の実施(太田川河川事務所)

1. 日 時 令和5年5月23日(火)・24日(水)
2. 訓練場所 太田川河川事務所 高瀬堰 左岸箇所
3. 訓練内容 排水ポンプ車及び照明車の操作訓練
4. 参加者 協定締結業者・太田川河川事務所職員

毎年、中国地方整備局太田川河川事務所では、保有している排水ポンプ車及び照明車の操作訓練を出水期までに実施しています。操作訓練では、機械の操作方法や設置手順、安全確認や留意事項等を確認しながら、迅速・確実に応急作業が行えるように実際の運転操作をはじめ、設置から後片付けまでの一連の作業を実施しました。

操作訓練には、太田川河川事務所と「排水ポンプ車及び照明車の運転操作業務に関する協定」を締結している業者（5社）と太田川河川事務所の職員あわせて42名が参加しました。



写真-1 操作説明状況



写真-2 水中ポンプ投入状況



写真-3 設置方法説明状況



写真-4 留意事項説明状況

◎今年度の各事務所における災害対策用機械操作訓練状況（（）内は6/19時点までの参加者数）

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| ・鳥取河川国道事務所 5/30～6/1, 6/5 (111人) | ・浜田河川国道事務所 4/21, 5/26, 6/7 (39人) |
| ・倉吉河川国道事務所 6/7 (42人) | ・岡山河川事務所 6/7, 6/12, 6/13 (184人) |
| ・日野川河川事務所 6/13 (23人) | ・福山河川国道事務所 6/9 (66人) |
| ・出雲河川事務所 5/26 (72人) | ・三次河川国道事務所 5/31 (59人) |
| ・中国技術事務所 5/11, 6/8～9 (66人) | ・山口河川国道事務所 6/22 |
- ※上記以外の事務所は調整中

新技術活用効果調査に係る変更事項

(1) 新技術活用調査表の提出（登録）

国土交通省直轄工事において、新技術情報提供システム（NETIS）へ登録された新技術を活用した場合に提出していただく「活用効果調査表（事後評価）」を通じて、有用な新技術の活用促進を図っているところです。

活用効果調査表の提出は、令和4年度から新技術情報提供システムへオンラインによる登録を開始していますが、令和5年度から次の事項が変更になります。

（主な変更事項）

事 項	令和4年度	令和5年度
ID/パスワードの付与	活用する新技術数分	工事単位（ID/パスワードは1）
登録作業	付与ID/パスワード毎にアクセス	1回のアクセス

令和4年度は活用した新技術毎にID/パスワードを付与、そのID/パスワード毎に新技術情報提供システムへアクセスし登録する必要があったため、新技術の活用件数が多い場合はたいへんな手間が掛かっていました。

令和5年度から、工事単位でID/パスワードを付与することに改め、新技術の活用件数が多い場合でも、1回のアクセスで複数の活用効果調査を登録できるようになりました。

※詳細は下記のURL（NETIS新技術情報提供システムのホームページ）をご確認ください。

https://www.netis.mlit.go.jp/NETIS/Files/Download/0308_NETIS_機能操作マニュアル_オンライン活用効果調査表作成【施工者用】.pdf

(2) 実施報告書の提出

継続調査が不要な〔VE〕技術についても、活用計画書と実施報告書の提出（登録）を求めていましたが、中国地方整備局では令和5年度から実施報告書の提出（登録）を不要にしました。

(旧)新技術活用時の登録資料の一覧

末尾の記号	活用計画書	実施報告書	活用効果調査表 (施工者用)	活用効果調査表 (発注者用)
VE	必要	必要	不要	不要
A	必要	必要	必要	必要
VR	必要	必要	必要	必要
登録時期	着手前	新技術活用後速やかに（工期途中でも可）		

※NETIS番号の末尾に付与されている情報種別記号の内容は以下のとおりです。

- [-A]・・・事後評価が未実施技術
- [-VR]・・・継続調査が必要な技術
- [-VE]・・・継続調査が不要な技術

(新)新技術活用時の登録資料の一覧

末尾の記号	活用計画書	実施報告書	活用効果調査表 (施工者用)	活用効果調査表 (発注者用)
VE	必要	不要	不要	不要
A	必要	必要	必要	必要
VR	必要	必要	必要	必要
登録時期	着手前	新技術活用後速やかに（工期途中でも可）		

※お詫び

NETISの改良時期は未定です。

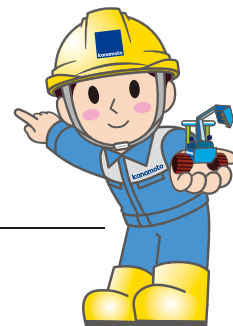
このため、現行NETISに「実施報告書」選択タブが残っています。

新入会員紹介

進化を続ける、対応力 カナモトができること。



カナモトアライアンスグループは事業活動を通して、世界的な開発目標である「SDGs」達成に貢献していくことが重要であると認識しています。17の目標のなかから当社グループの事業と関連性が高いものを特定し、それらの達成に向けて重点テーマにおける取り組みを推進していきます。



株式会社カナモト ●本社:札幌市中央区大通東3丁目1番地19 TEL.011-209-1600
広島営業所 広島県広島市安佐南区伴南2丁目5番10-31号 TEL:082-849-6551
広島南営業所 広島県広島市南区出島2丁目11番38号 TEL:082-250-8411
倉敷営業所 岡山県倉敷市中畝1丁目8番20号 TEL:086-455-9711

お知らせコーナー

今後の行事予定

日時	区分	行事名	内容	備考
令和5年 8月下旬頃	検定試験	令和5年度 建設機械施工管理技術第二次検 定(実技)試験	試験種別: 1級・2級(第1種・2種・3種・4種) 試験会場: 調整中	申請者

編集後記

先日、スマホで話題のChatGPTに建設業界のことについて聞いてみたところ、なんと「建設機械の自動運転技術が進んでいる」との返答が返ってきました。さらに「その自動運転技術は生産性向上や安全性向上につながる可能性がある」とも教えてくれました。

今回のG7広島サミットでも、グローバルな課題に対して持続可能な解決策が議論されました。建設業界でも、建設機械の自動運転や品質管理の改善など、AI技術を活用した革新的な取り組みが進んでいます。

AI技術は日進月歩で進化しており、今後ますます私たちの暮らしや仕事において重要な役割を担っていくことは間違いありません。とはいえ何から始めればいいのかもわからず、まだChatGPTですらうまく使いこなせませんが、まずは身近なところからAI技術に触れる事で、その変化に対応できる知識やスキルを身につけ、未来に備えていきたいものです。